

2010年1月

上海乳質改善ワークショップの報告

昨年上海で中国の酪農従業員（すべて女性）を集めて、乳質改善（体細胞数）のワークショップを開催したので、その概要を報告します。

牧場内には約300頭の搾乳牛がつなぎ牛舎3棟（1棟100頭前後）で飼われており、搾乳従業員7名（内1名は分娩牛担当）がいます。搾乳は1日3回実施されており、5時半、1時半、8時半の3回で行われています。各牛舎にはパイプラインが設置されており、それで100頭前後を2名の搾乳従業員で3回搾乳をします。

パイプラインは非常に古く、既に20年を経過しているとのこと。自動洗浄の装置もなく、見る限りに置いて更新時期を迎えている代物です。

朝の搾乳後に搾乳従業員を集めてワークショップを開催しました。搾乳従業員は文字が読めないこと、日本語から中国語への通訳の時間などを配慮し、2回に分けて実施しました。その後再度確認のためのワークショップを行い、合計3回のワークショップを開催しました。

搾乳従業員以外に、中国の獣医学科の大学生が実習で来ていたので、その学生も10名ほど含めて参加しました。この学生には、メモをとってもらったり、グループの話をまとめたりしてもらいました。学生にもグループ学習の体験です。

搾乳者に対するワークショップ

第1回目

テーブルなしで、円形に陣を取って座ってもらい、中央にスペースを作りました。中央でパワーポイントの写真と動画を見ながら説明する布陣としました。文字は極力少なくした。

前半戦

アイスブレイク 定番通りに実施をする。

牧場での経験年数順に並んでもらい、その経験年数の聞き取り調査をする。8年から25年のベテラン女性搾乳従業員であることが判りました。

その後搾乳理論の説明に使っている「じゃんけん」を利用したアイスブレイクをする。日本から持って行った賞品をかけたのゲーム形式。賞品は緊急バンソコウ、熱さまシート、チョコレート、ホテルのアメニティーなどを賞品としました。

じゃんけんゲームは、私とのじゃんけんで勝った人は座り、「あいこ」と負けた人はゲームを継続します。最後まで私とお付き合いできた人が勝者となります。勝った人より、1個の賞品と選ぶ権利が生じます。バンソコウ、熱さまシート、チョコレートが人気でした。従業員にはホッカイロの人気があるとのことでした。次回賞品としましょう。

じゃんけんゲームにて殊の外うち解けて、スタートすることができました。やはり言葉は違ってアイスブレイクは必ず必要なものと実感。（この後更にそれを実感した）

後半戦

パワーポイントでは理解ができているかどうか不明のために、短時間で切り上げる。その後

搾乳ユニットを利用して、どのようにしてミルカーを使っているかを聞きながら実践してもらう。

搾乳ユニットを使用する模擬搾乳体験

牛役2名 指を出して乳頭4本を作る。 柱役1名 パイプラインの代わりをする。

搾乳従業員に中央に登場願ひ、クローの持ち方、ライナー装着順を尋ねる。みんながどの順で行っているかを銘々に話し出す。数人に模擬体験をしてもらい、なぜこんな事が重要かの話をする。右利き左利きでもめも、従業員は理解できている様子が見られた。ライナーの捻れ装着の話、乳頭の拭き方の話を更にする。装着後のクローバランスの話も行う。中国人はそれぞれが勝手に話し出し、人の話を良く聞く習慣がないのではと感ずる。ワークショップのコントロール不可能となり、拍手でみんなの話を数度にわたり止める。しかし、静かな雰囲気よりは気持ちが良い感じはする。

実際の搾乳体験を行ってもらうので、それぞれが色々な順で搾乳していることが判り、共通作業の必要性を幹部に理解して頂けた感じがします。

パワーポイントにて写真、動画を見せながら乳房炎の成り立ちを説明するも、何処まで理解できているかが不明。ミルカーを持ってきて、実物で説明をしながらも行う。2時間の予定があったという間に終了し、1回目は終了する。それぞれの顔に緊張している様子はなく、笑顔が見えていた。

第2回目

昨日に引き続き2回目を実施。賞品が勝手にすべて持って行かれて無くなるために、アイスブレイクは省略する。緊張感は見られない。

中心話題は乳房炎（体細胞数）問題とする。搾乳立ち会いで気が付いた最も大きな問題は、過搾乳とひたたくり離脱である。昨日のように模擬体験を通じてミルカーの外し方、外すタイミングとは？を聞き出す。タイミングや外し方に全く関心が見られないので、搾乳時に撮影したビデオを見ながら、皆さんはどう思うかを考えてもらう。

ライナーに指を入れたことがない人がいたので、搾乳時に指を入れてもらいその感触を味わってもらうことにした。学生が興味を示していた。

搾乳者の共通した離脱のタイミングはないようである。討議させるも明確な結論は出ない。早く外すために1名2ユニットを提案するも、搾乳時間が延びる事を理由に、搾乳者の賛同は得られず。その後の搾乳立ち会い時に、「この牛はもう終わっている」連発し、如何に外すことが遅いかを教える。この時の作業内容が3回目に通ずる。

第3回目

搾乳立ち会いで、少しは話の内容が理解できて、問題点の改善策が実施されていることは判ったが、最大の問題点の離脱タイミングとひたたくり搾乳を防止できていない。そのために急遽3回目を実施した。

手法を変えてみる。4の検討課題を与えて、それぞれ2グループに分かれてその課題を議論してもらった。学生にメモとまとめを依頼する。今回は私の説明は極力少なくし、みんなの議論の結果を聞き、理解度を見ることを主眼として実施した。1課題10分の討議時間で、学生にそのまとめを聞くことにした。



4の課題

- ◆ 手指放进奶衬试过吗 ライナーに指を入れてみたか？
- ◆ 手指的痛感牛是怎样感觉 入れた指の痛さを牛はどう感じているか？

- ◆ 先摘除吸奶器重要 ミルカーを外す事が優先か？
- ◆ 挤下头牛的准备工重要 次の牛の搾乳準備をする事が優先か？

- ◆ 为什么只剩一个奶头挤不尽 なぜ1本だけ牛乳が残るのか？

- ◆ 让挤奶作业先完成重要 搾乳作業を早く終わらせる事が優先か？
- ◆ 防止乳房炎重要 乳房炎を出さない事が優先か？

最後の課題は時間切れにて議論できなかったが、こちらの意図とすることは概ね理解できているようで、一安心。長年搾乳を続けているので経験もあり、言葉がわからずとも理解できていた模様。次回のワークショップ開催で、何処まで進歩しているかを確認したいものである。

清掃員 給餌員に対するワークショップの開催

別な作業をしている清掃員・給餌員に対するワークショップも開催してみた。すべて男性で、経験が最長2年の労働期間である。他の仕事が良ければ止めるのか、解雇されていないのかは不明。女性陣と比較すると、かなり経験が短いことが特徴である。

アイスブレイク

賞品が無くなり、アイスブレイクを省略する。これが大きな間違いの元であった。こちらにも緊張があるが、受ける側にもかなり緊張があるはずである。それを解消して進めなかったことは、大失敗の元。中国の女性陣はうるさいくらい話をするが、男性陣はあまり話をしない。質問をしてみても回答が良く得られない。反省である。



バンクマネジメントの話をするも理解できている様子はなし。現場の写真を見ながら話してみたが、反応が見られない。これが文盲の反応かと思われたが、アイスブレイクがないことが最大の問題点と、後から気が付く。

他によい仕事があれば、そちらに転職しようと考えているのか、それとも進歩しようとする考えがないのか、全く不明。女性陣の勤務経験の長さや男性陣の勤務経験の短さは何かを物語っているはずであるが。

まとめ

言葉が通じなくとも、何かは通ずるものがある。一方的宣教師型では、ただ聞いた振りをするだけになってしまう可能性が大きい。自分たちで議論しながら考え方をまとめる参加型手法は、言葉の壁、文字の壁を壊せるかもしれない。いずれにしてもまずは笑顔が一番であった。女性陣は外でも挨拶ができるようになった。 謝意 謝意